

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【新和小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	①基礎的な知識・技能を確実に身に付け、情報を活用して課題を解決する力 ②自分の考えをもち、対話を通して表現する力 ③多様な他者と協働し、よりよい社会や学級・学校生活をつくる力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	①授業や前の時間に、基礎・基本となる事項・情報活用の基礎的スキルの反復・習熟を行う。【通年・全単元で実施】 多面的な視点から学習態度を確認し、個別最適な学びの手立てを講じる。【通年・全単元で実施】 ②授業において魅力ある導入や必要感のある課題設定、児童が解決の見通しをもって自力解決する場面の設定を行う。【通年】 ICTを思考の可視化や表現の深化のために活用し、自己の考えを表現し、対話を通して考えを深めることができるようにする。 【通年・単元の5割以上】 ③小・中一貫教育である「花笑み教育」の取組の中で、地域の方々と協働する活動や、学校や地域をよりよくする活動等を児童が主体的に行うようにする。【通年・年間3回以上】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語では、文章内の「考え」とその根拠となる「事例」や「理由」との対応関係を認識して読むことや、話し手の意図や伝えたいことに合わせて構成を吟味して表現することに課題がみられる。 算数では、空間や図形の構成要素の把握の定着、立式の理由を筋道を立てて説明したり、記述したりすることに課題がみられる児童が多かった。 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に、肯定的な回答をする児童は86.2%であった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・情報から必要な部分を正確に抜き出して引用する力や、漢字や語彙、数量関係などの基礎的な知識を、活用場面と結び付けて身に付けることに、引き続き課題がみられる。 ・相手に自分の考えを伝えるために、どのような順序や構成をしたらよいと考えて表現することに引き続き課題がみられる。 ・他者と協働し、学習や生活での課題を解決しようとする事ができている。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策①～③ともに、実施することができている。 ①②については、基礎基本の定着や読解力・表現力の向上にむけて、校内研修等を通して有効な手立てを考えたり、これまで効果的であった指導を情報共有したりしながら、今後も学校全体で力を合わせて指導していく。 ③については、小・中一貫「花笑み教育」として、中学校区の3校と連携を図りながら児童や地域の実態を生かした特色ある教育活動をより一層充実させていく。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所